

山ノ内町手をつなぐ育成会・社会文教常任委員会懇談会実施結果報告書

日 時	平成28年1月21日(木) 午後2時00分から午後3時50分
場 所	つつみ住民活動センター
出 席 者	山ノ内町手をつなぐ育成会 望月明子会長、山本成子副会長、他同会員10名、 町社会福祉協議会事務局長 鈴木浩史 同職員 松澤ひとみ 山ノ内町議会 社会文教常任委員会 委員長 渡辺正男、副委員長 小林民夫、委員 児玉信治・山本良一・望月貞明 総務産業常任委員会 委員長 西 宗亮、委員 徳竹栄子・高山祐一
議員役割分担	総括責任者 渡辺正男委員長 司会進行 手をつなぐ育成会副会長 山本成子 記録者 小林民夫副委員長
次 第	1. 開 会 山本副会長 2. あいさつ (1)山ノ内町手をつなぐ育成会長 望月明子 (2)社会文教常任委員長 渡辺正男 3. 自己紹介 4. 懇談事項 (1)障害児の学校教育の状況 (2)障がい者の雇用問題 (3)知的障がい者の現状と将来 (4)災害時の障がい者対応 (5)福祉サービスの創出 (6)町手をつなぐ育成会員の声 5. 閉 会 (1)山ノ内町手をつなぐ育成会長 望月明子 (2)社会文教常任委員長 渡辺正男
主な質疑内容・意見提言	1. 障害児の学校教育の現状 (1)町内学校での特別支援学級の現状 ・ H26年の町の成果報告書より東小10人、南小5人、西小7人、北小0人の計22人。 (2)学校教育について障害児への配慮についての議員の考えをうかがいたい。 ・ 一般質問にて障害児の質問経験のある児玉信治氏(難聴の子の普通学級での授業実現) ・ 西宗亮氏(発達障害の子が保育園の頃から目立ち始めているので、教員の加配を提案)の両氏体験発表。

2. 障害者の雇用問題

(1) 障害者法定雇用率(2%)に対する行政と町内企業の達成率

- 山ノ内町役場は2.2%、長野県は1.98%。町内企業の統計数字はない。

(2) 障害児本人たちは町内で働きたいが就労出来ている者は少ない。実現に向けての議員の考えを聞きたい。

- 町内では主に紙やきのご関係の職種が多いようだ。ホテルでの皿洗いなどの例もある。同じ作業でもちょっとした配慮で適合できた例もある。

3. 知的障害者の現状と将来

(1) 親亡きあとの本人の生活が不安だ。グループホームのような障害者住環境の積極的取り組みを願う。

- 北信圏域(北信6市町村合同)で社会福祉法人高水福祉会と連携してグループホームの新設整備を計画し順次整備を行っている。

4. 災害時の障害者対応

(1) 本人一人の時に誰が助けてくれるのか

- 町では要援護者台帳の整備を実行しており災害時の救援体制ができています。

(2) 町内で作成の広まっている災害時支え合いマップには助けの必要な障害者世帯も含まれているか

- 湯の原、上条、本郷、湯田中、佐野、穂波温泉の各区でマップの取り組みが為されている。個々の同意の上で区、組の単位で情報共有・災害時の避難体制が組まれている。高齢者も障害者も含まれている。

5. 福祉サービスの創出

(1) どこでも一人では行けない。あるいは駅から遠いところへ行けない。送迎のサービスの充実を求む。

- かつてデマンド交通を試してみたが利用者が全くといってよいほどなかった。行き先が湯田中駅で、乗り換えて電車を利用が不合理だったかも。

(2) 認知症の人の搜索態勢ができています。障害者が行方不明の際の搜索態勢もつukれないか。

- H27年に立ち上げたSOSネットワークシステムは高齢者ばかりでなく障害者の方でも登録できる。これを活用できる。

6. 山ノ内町手をつなぐ育成会の声

(1) 親が急用とか入院の際に一時預かりの場所が欲しい。

- 現在、障害者福祉サービスとして一時預かりの制度がある。

(2)新設のグループホームには地域住民との交流拠点の役割を期待する。当育成会としても施設との交流や環境美化には積極的に関わって行きたい。

<自由質疑応答>

議員：知的障害者は町内に何人いるか

- ・ H27の3/31現在で18歳以上108人。18歳未満が17人、合計125人である。

議員：知的障害ある人が職に就く場は。

- ・ ももの木に20人ほど在籍。大半が電車・バスで通って来る。定員20人が一杯の状況である。定員増や荷物・資材置き場不足のため移転研究中。

議員：エノキダケの生産を営んでいるが以前3日ほどで退職してしまった。何%ほどの人が一般事業所に勤めたいのか。

- ・ 根気が続かないという障害もある。マスクや作業着になじまない人もいる。

議員：グループホーム建設のために土地提供する申し出でを断られたと言うが詳細を聞きたい。

- ・ 土地提供者の子が入所できるかどうかは不明といわれた。

保護者質問：親がいないときに子がいられる場所が欲しい。高水福祉会ではグループホームが多数ある。

- ・ 町の実施計画に南小の教員住宅の解体計画がある。その後利用が未定になっている。（渡辺委員長）

議員：会員の方の子の年齢は。また養護学校卒業後の進路は。

- ・ だいたい24～70歳だ。養護学校高等部を終了後は実習に入るがほとんど実習所は無理で施設に入る。

議員：質問書の5の(1)、一人ではどこへも行けないのに乗り物が少なくまた送迎のサービスもわずかとのことだが、町には福祉乗物補助券給付事業があって400万円の予算がついている。これを利用しやすいようにしたい。

※ 渡辺委員長の補足説明⇒自宅からの通所は県の制度もある。

保護者意見：さまざまな支援サービスはこちらから訊くまで教えてもらえない。情報サービスの充実を望む。

保護者意見：地域障害者の移動は本人と親にとっての一番の問題だ。須賀川より中野の職場までバスを使っているが9月末で廃

	<p>止とのことだ。支援事業に追加を頼んだが一人で職場に行けるなら支援事業には無理とのことだ。須賀川の乗合バスの継続に尽力されたし。</p> <p><問題となった重要事項></p> <p>①親も子も高齢化するなかでのグループホーム(子の居場所、住処)の不足。</p> <p>②障害者の移動支援の工夫と充実。</p> <p>③障害者の雇用・就職(職種、仕事内容、作業手順の工夫など)の支援。</p>
<p>その他反省事項等</p>	